

6. 綾部市君尾山光明寺文化財総合調査

岸 泰子

1. はじめに

歴史学科では、2018 年度より地域貢献型特別研究（ACTR）として、綾部市君尾山光明寺の文化財総合調査を実施している（代表 横内裕人）。以下、今年度の活動状況を報告する。

2. 調査日程・参加者

日程 2020 年 11 月 7 日（日）・8 日（月）、12 月 10 日（金）・11 日（土）

参加者 京都府立大学 横内裕人・岸泰子・正瑞千幸（4 回生）・東拓宏（3 回生）
藤村昂輝（3 回生）・川西優帆（2 回生）・松岡茉陽琉（2 回生）
同志社大学 井上一稔・工藤裕司（M2）・高口柚（M2）・相松秋斗（2 回生）

3. 調査内容

11 月 7・8 日、光明寺本堂内の仏像ならびに位牌の調査を実施した。仏像については、同志社大学井上一稔先生に調査を依頼し、写真撮影・調書作成などを行った。位牌については、京都府立大学の教員・学生が調査を担当した。

12 月 10 日には光明寺二王門・本堂の周辺にある石造物の実測・写真撮影を実施した。同月 11 日には、古道調査を行った。光明寺がある上林地区と舞鶴をむすぶ古道を踏査し、位置などを確認した。以上の調査成果については、次年度以降に報告書を刊行する。

なお、2021 年 3 月、これまでの本事業の調査成果報告書として『京都府立大学文化遺産叢書第 20 集 綾部地域における文化資源の発掘と継承 君尾山光明寺文化財調査報告 I』を刊行した。また、2021 年度の調査の成果については、2022 年 2 月より綾部市歴史資料館にて開催される企画展にて展示を行う予定となっている。あわせて、同企画展会期中に、学生による展示解説を行う予定である。以上の催し物については来年度の本集報にて概要を紹介する予定である。



写真 1 調査風景